

## 平成29年度 授業シラバスの詳細内容

|               |   |     |             |         |
|---------------|---|-----|-------------|---------|
| 科目名(英)        | 心理学概論A(Introduction to Psychology A)                                      |     | 授業コード       | K003501 |
| 担当教員名         | 高橋 淳一郎  |     | 科目ナンバリングコード |         |
| 配当学年          | 2   | 開講期 | 前期          |         |
| 必修・選択区分       | 教職・選択   | 単位数 | 2           |         |
| 履修上の注意または履修条件 |   |     |             |         |
| 受講心得          | 遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外空など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。 |     |             |         |
| 教科書           | はじめて出会う 心理学 長谷川寿一 他 著 有斐閣アルマ  |     |             |         |
| 参考文献及び指定図書    | 特になし  |     |             |         |
| 関連科目          | 児童心理学、臨床心理学、社会心理学、教育心理学、青年心理学、カウンセリング、心理アセスメント、精神保健学                      |     |             |         |

|       |  |
|-------|--|
| 授業の目的 | 心理学的な知識は、子どもの健全育成はもとより大人も社会の中でよりよく生きていくための重要な示唆を与えてくれます。また、教員としての実践的なことを学ぶ時の大きな手助けとなる知識を身につけることができるでしょう。この授業では心理学の概論を学びながら心理学が教育の現場で活かされている例を知ることによって、人間理解と教育の基礎的な知識を身に着けることを目的としています。 |
| 授業の概要 | 授業は基本的に講義形式ですが、心理学を身近に感じ、そのおもしろさを実感してもらうため、一部で演習形式の基礎実験的な内容を取り入れる予定です。   |

| ○授業計画   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 学修内容  | 学修課題(予習・復習)                         |
| <b>第1週：オリエンテーション・心理学の歴史</b><br>最初に授業の進め方について説明します。<br>そして、心理学という学問が成立し発展してきた歴史について概観します。  |                                     |
| <b>第2週：心理学とは？</b><br>そもそも心理学とはどのような学問か、第1週の内容の続きとして心理学が発展してきた歴史について、特に19世紀終わりからの流れを概観します。 | テキストp3～p28<br>リアクションペーパー提出          |
| <b>第3週：心の進化</b><br>心とはどのような働きがあるのか、という課題から人間とその他の動物とは何が違うのか考えていきます。                       | テキストp29～p46<br>リアクションペーパー提出         |
| <b>第4週：心の発達</b><br>主に乳幼児期の心の発達について学び、子どもの成長発達と環境への適応について考えていきます。                          | テキストp47～p66<br>リアクションペーパー提出         |
| <b>第5週：ライフサイクル</b><br>エリクソンの心理社会的発達理論をベースに、人間の生涯発達について学び、それぞれの時期の発達課題とは何か理解をしていきます。       | テキストp67～p70、p76～p82<br>リアクションペーパー提出 |
| <b>第6週：青年期</b><br>今の自分と、教員となってから相対する青年期に焦点を当てて、青年期特有の心の動きと葛藤について理解を深めていきます。               | テキストp71～p75<br>リアクションペーパー提出         |
| <b>第7週：動機づけ</b>   |                                     |

私たちは様々な行動をしていますが、それにはすべて理由があります。この、人を突き動かすものの正体を探ります。

テキストp83～p100  
リアクションペーパー提出

|   |                |                               |
|---|----------------|-------------------------------|
| <b>第8週：性格</b><br>性格を理解するうえで、まず類型論と特性論の基本的な考え方を知り、そのうえで体格類型説や向性理論、主要5因子理論を学びます。              |                | テキストp101～p116<br>リアクションペーパー提出 |
| <b>第9週：演習1</b><br>前回の講義をベースに、性格についての心理実験をおこないます。  |                | 演習課題<br>リアクションペーパー提出          |
| <b>第10週：知能</b><br>知能に関する定義をいくつか紹介し、さらに知能の内容を学ぶことによって知能とはどのようなものを指しているのか理解を深めていきます。          |                | テキストp117～p130<br>リアクションペーパー提出 |
| <b>第11週：演習2</b><br>前回の講義をベースに、知能についての心理実験をおこないます。   |                | 演習課題<br>リアクションペーパー提出          |
| <b>第12週：ストレス</b><br>ストレスのもとになるものは何かという課題から、私たちが陥りやすい心理病理について考えていきます。                        |                | テキストp131～p136<br>リアクションペーパー提出 |
| <b>第13週：メンタルヘルス</b><br>前回の内容をベースに、精神的な健康とは何か考え、メンタルヘルスを維持していくために必要な知識を学びます。                 |                | テキストp137～p144<br>リアクションペーパー提出 |
| <b>第14週：カウンセリングと心理療法</b><br>来談者中心療法や認知行動療法の理論と実際を学び、教員として教育相談に必要な知識やカウンセリングマインドについて考えていきます。 |                | テキストp145～p158<br>リアクションペーパー提出 |
| <b>第15週：演習3</b><br>メンタルヘルスやカウンセリングに関連して、心理テストを体験的に学びます。                                     |                | 演習課題<br>リアクションペーパー提出          |
| <b>第16週：期末試験</b><br>これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。       |                |                               |
| 授業の運営方法   | (1)授業の形式       | 「講義形式」                        |
|   | (2)複数担当の場合の方式  |                               |
|   | (3)アクティブ・ラーニング | 「アクティブ・ラーニング科目」               |
| 地域志向科目  | 該当しない          |                               |
| 備考  |                |                               |

○単位を修得するために達成すべき到達目標

|                   |  |
|-------------------|--|
| 【関心・意欲・態度】        | ①教職を目指す者として心理学が教職にどのようなつながりがあるのか理解できる。                           |
| 【知識・理解】           | ②ライフサイクルと人間の発達における重要なトピックスについて理解できる。<br>③人間行動の背景における基本的理論を説明できる。 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | ④知識を応用した演習に積極的に参加し、理解を深めることができる。                                 |
| 【思考・判断・創造】        | ⑤精神的健康に対する心理学的かかわりについての基本が理解できる。                                 |

|                         |                     |                   |                  |      |
|-------------------------|---------------------|-------------------|------------------|------|
| ○成績評価基準(合計100点)         |                     |                   | 合計欄              | 100点 |
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等<br>(テスト) | レポート・作品等<br>(提出物) | 発表・その他<br>(無形成果) |      |

|  |     |    |     |
|--|-----|----|-----|
| <b>【関心・意欲・態度】</b><br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。                         |     | 5点 | 20点 |
| <b>【知識・理解】</b><br>※「専門能力(知識の獲得)」を含む。                             | 30点 | 5点 |     |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b><br>※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | 10点 | 5点 |     |
| <b>【思考・判断・創造】</b><br>※「考え抜く力」を含む。                                | 20点 | 5点 |     |

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

| 成績評価方法            | 評価の実施方法と達成水準の目安   |
|-------------------|---|
| レポート・作品等<br>(提出物) | 毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。<br>A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。<br>B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。<br>C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。<br>D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。 |
| 発表・その他<br>(無形成果)  | 出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。  |